

## ゲルハルト・リヒター展

東京国立近代美術館（北の丸公園） 2022.06.07～10.02

「ゲルハルト・リヒター」（1932～）は、ドイツの現代アート巨匠で油彩画・写真・デジタルプリント・ガラス・鏡など多様な素材を用い、具象と抽象を行き来しながら制作活動を続けている。これまで、パリ、ロンドン、ニューヨークなどの世界の名だたる美術館で個展を開催し、現代で最も重要な画家としての地位を不動のものとして、日本での大規模個展は16年振りの開催である。

本展は、画伯が90歳を迎える年に、自ら愛蔵してきた作品群を中心に、60年にわたる初期作から最新の素描までを含む「約110点」の画業を紐解く展覧会の開催で、最重要作品「ビルケナウ」が本邦初公開されることで注目されている。

ゲルハルト・リヒター 《ビルケナウ》 2014年 幅2m、高さ2.6m 4点



展示品の目玉は、大作で第二次世界大戦時にユダヤ人強制収容所で、ひそかに撮られた写真のイメージを出発点として描かれた「巨大な作品4点」で、注目される近年の重要作品と目されている巨大な抽象画である。

この作品は、しばしば組み合わせて展示される「鏡」「絵画」と同じ寸法の「写真作品」とともに日本で初公開されることで注目されている。

### <本展の見どころ>

1. 現代アートの巨匠、待望の大規模個展  
本邦では実に16年ぶりで、東京での大規模な個展開催は最初である。
2. 最新作を含むリヒター所蔵の作品で、60年におよぶ作家の画業をたどる。  
世界のアートシーンで常に注目を集めてきた画伯が、一切手放さず手元においてきた財団コレクションに加え、本人所蔵作品中心に貴重な作品「約110点」が初めて一同に会する。
3. 近年の大作《ビルケナウ》、日本初公開  
巨大な抽象画は、本邦初公開でホロコーストを主題としていて、近年の重要作品とみなされている。